

第3回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2026 年 7 月 7 日（火）19 時～21 時

◇方法：Zoom によるオンライン形式

◇参加者：45 名

◇内容：実践事例の ESD 授業分析 大阪市立歌島小学校 三笠日向先生
「知行合一」～大塩平八郎の乱から学ぶ～（小学校 6 年生：社会科）

【事例紹介】

前任校（大阪市立新森小路小学校）での実践

総合的な学習の時間などを中心に様々な活動を行っていたが、すべて教員主導で行動化していた
社会科・・・調べ学習を積極的に進めていたが、知識中心で薄っぺらな印象

江戸時代以降で大阪の人 大塩平八郎（教科書にコラム的に登場する）

1 冊の本との出会い 「大塩平八郎の乱～幕府を震撼させた武装蜂起の真相」（薮田貫：中公新書）

乱の様子や背景、参加者の名前（森小路村〇〇他 3 名、森小路村医師 など）も書かれている

大塩平八郎は乱の後、自爆し亡くなる 乱に参加した人は基本的に死刑

→ 自分たちの地域や生活をよくしたい でも乱を起こせば 100% 処刑される

子どもの中で葛藤させられるのではないかな

（みつめる）

「なぜ私たちの祖先は乱に参加したのだろうか？」 死ぬのが分かっているのに・・・

大塩平八郎と森小路との関係は？

乱の背景や経過の中で、人々はどのように行動していったのだろうか？

（しらべる）

当時の社会情勢（飢饉、役人の賄賂など政治の腐敗など）や、大塩の人となりなど

大塩平八郎が信じた陽明学とは？

なぜ森小路村を頼ったのか？

「知行合一」とは？

本の著者、薮田氏に直接コンタクトをとって来ていただくことに

大塩平八郎は陽明学を学び、大切にしてきました。また、役人をやめて私塾を開き門徒にそれを教えています。その中でも、「知行合一」という言葉を大切にしてきました。意味は、「真の知識は実践によって裏付けられていなければならないということ」となっていて、学んだことは実践しなければ意味がないということです。この言葉があったからこそ、大塩平八郎は乱を起こしたのです。

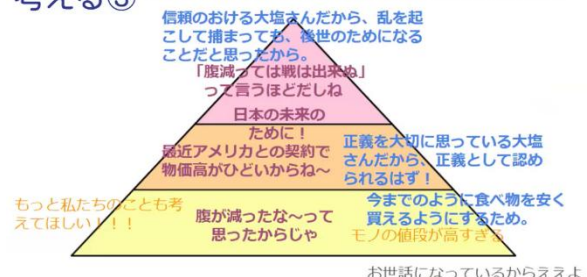
（考える）

「なぜ祖先の人々は、殺されると分かっているのに大

塩平八郎に賛同したのだろうか？」

調べたことをもとに当時の人々の思いを考える

考える③



世代内の公正・・・大阪を守りたい 家族を守りたい このままじゃ何も変わらない など
世代間の公正・・・次に生まれてくる人のために 未来は平和であってほしい など

薮田先生からのコメント

ご先祖たちが大塩事件に関わる大きな要因として、森小路には大塩先生の教えを大事にする門人がいたことです。その門人たちが地域のリーダーであったことから、彼らの呼びかけでたくさんの村人たちが参加、支援することになりました。

(ひろげる) 家庭科や総合的な学習の時間で

自分たちの地域について学んだことを発信しよう

地域のリーダーに向けて自分たちは今どんなことができるか考えよう

- ・大塩平八郎や祖先が行った「知行合一」を発信する
- ・地域を守り大切にするために活動している大人に協力し、活動に参加する
- ・地域の様々な場所で学んだことを発信する

人権プロジェクト、環境プロジェクト、平和プロジェクトなど、知行合一の実践

責任性：命を失うことになるにもかかわらず乱に参加する

批判的に考える力：太平が当然であると思われていた幕府の支配を問い直し、行動化した

すすんで参加する態度：「知行合一」の言葉を大切にし、よりよい地域づくりに自分のできる行動をとる

【意見交流から】

○行動化のプロジェクトの具体的な動きは？

→ 地域の清掃活動や日常的なごみ拾い、地域のお年寄りとのカフェでのふれあい など。

○森小路という自分たちの地域が事例として登場するのは強みであると感じていい。

自分たちの町の中にそういった題材は必ずあるはず。

○教師が学ばせたいと思うことと、子どもが学びたいと思うことがうまく合わさる導入が難しい。

○「自分たちの生活を良くしたい」⇔「乱を起こせば 100%死刑である」というクリティカルシンキングが軸になっている。

○今の世の中だと、国籍や人種、環境などの多くの人々の生き方が問われているように感じる。

○「この時代のこの瞬間、正解を選ぶ必要があった。」という状況を自分達に置き換えたとき、自分達の選択肢は何なのか、何を正解と考えるのかを行動で表せるようにすることがESDにおいて大切なことだと考えている。

○教科書の延長からESDを展開しているのが参考になった。

○責任性を挙げているが、「命を懸けてまで」というのは違和感が残る。自分なら「公平性」かと思う。

○大塩平八郎との出会わせ方に無理がなかったか？

→ それまでの歴史学習では、だれが何をしたかということばかり追いかけていたように感じる。

自分たちの地元のことが出てきただけで急に子どもの目の色が変わった。

○どれだけ生活が苦しくても世の中を乱すような行いをしていいのか、というような子どもは？

→ 「知行合一」の考えを子どもたちに理解し実践できるようにしたかったのがいちばん。

乱を起こさず解決する方法も考えたが、それでは何も変わらないという葛藤を持っていた。

○なぜ先生は大塩平八郎を掘り下げようとしたのか？ → 自分が面白いと思った！

○藪田先生に GT で関わっていただくにあたり、先生がしたことは？

→ 兵庫県立歴史博物館に直接電話、後日会って1時間ほど自分の授業への思いをぶつけた。
いたく感動していただいた。

○地域の題材を見つけるためにも、ぜひ市史や町史などをまずは読んであたってみてほしい。
結構ヒントが見つかるもの。

【ESD としての分析】働かせる視点（見方・考え方）、価値観にしぼって
（見方・考え方）

- ・連携性：生き抜くためにも地域の人と力を合わせて行動を起こした。
- ・責任性：「やりとげる」というところでは言えるかも。

（価値観）

- ・幸福感・・・死をもって行動する先に、多くの人の幸せが待っている
今の私たちには分からないが・・・。
- ・人権・文化の尊重・・・当時の価値観から言えば、「命を懸けても」守るべきものがある
「尊重」というものではないと思うが・・・。

世代間・世代内の公正だけではなく、人権を尊重することにも繋がるのでないか。今も昔も人が生きることの大切さは、時代が違えどそれぞれにあったはずである。この価値に気づくためにも、時代を跨ぐことの必要性があったのではないか。

今の価値と昔の価値があまりにも違う。背景に合わせた学び方が必要だと考える。